

嵯峨 裕紀（さがゆうき）氏

卒業年：本科 平成 17 年 3 月、研究科 平成 18 年 3 月

専攻：肉畜 住所：盛岡市玉山区



1 現在の経営概要

和牛繁殖牛 50 頭、子牛 30 頭、削蹄師として年間 1,600 頭の削蹄

2 経営での担当部門、取組状況、経営の特徴など

農大研究科を卒業後にすぐに就農。和牛繁殖経営を両親とともに経営。経営の特徴としては、放牧を取り入れたり、フリーストール牛舎（外壁なし）の活用、手づくりによる牛舎の増棟により省力化、低コスト化を図っている。技術面では、早期母子分離による分娩間隔の短縮にも試行錯誤しながら取り組んでおり、平均分娩間隔は 385 日くらいと地域平均より短い。また、昼間分娩技術を導入したことにより、約 9 割は日中に分娩しており、夜間の分娩作業という苦労は回避できています。

一方、繁殖牛の管理のほか、削蹄師としても年間約 1,600 頭の牛の削蹄を行っています。「第二の心臓」といわれる蹄は牛の健康管理にも重要で、乳牛などは管理を怠ると乳量減につながると言われている。削蹄は農大 OB の先輩と協力しながら地域貢献の意味合いも込め続けていきたいと考えています。

3 就農しているなかでの苦労、良かったこと

○ 学んだことと実際に現場に入ったときの技術のギャップがあること。例えば、「早期母子分離」の飼養管理は農大で学んだことがすぐに現場に生かせると思ったが、現場に生かすためには子牛の飼育状況を観察しながらそれぞれの状況に応じた管理が必要であり、試行錯誤しながら実際に役に立つ技術として習得するまでに 3 年くらいかかった。

○ 就農して良かったことは、最初は苦労したが、自分の思うような生産物を生産し、評価していただいたとき。

4 農大での学生生活（役に立っていること、もっと勉強しておけばよかったこと、思い出など）

○ 学生時代の友人とは今でも連絡を取り合い、励ましたり、情報交換している。農大での実習は大いに役立った。

○ 現場で役に立つ技術を覚える必要がある。そのためには、実習にも主体的に取り組み、いろいろな失敗して試みるのがよいと思う。

5 将来の夢、目標

当初は家を継ぐことが目標だったが、地域の畜産農家が減少、衰退しているのを見ると何としても増頭しながら地域の畜産を盛り上げていきたいと思いました。また、繁殖牛では腕を磨き県内でもトップになりたいと思っています。

6 在校生への激励メッセージ

農大では、特に就農を志す人は、仲間づくり、そして先生方とのつながりが大事です。一生物の出会いがあるのが農大だと思います。そして、学生生活を楽しんでください。

7 HP、ブログ、Facebook の有無

Facebook に登録しています。また、岩手県農村青年クラブ連絡協議会の Facebook、ブログもありますので、そちらも見てください。



8 取材後記（取材職員記入）

当日は生後 1 か月の息子さんもおりました。奥様との出会いも農大が縁になっているそうです。嵯峨さんは、現在の岩手県農村青年クラブ連絡協議会の会長としても活躍。青年クラブは、いろいろな情報交換、悩みを語り合ったり、また、息抜きのある場でもあるそうです。就農する人はぜひとも 4H クラブへとのこと。また、月間アキュートには「うし日記」をかれこれ 5 年間執筆していますが、読者からも反響があり、元気をもらっているそうです。自家の経営、削蹄師の仕事、4H クラブなどなど多忙な中でも、全て前向きに取り組むバイタリティあふれる青年です。